

合併の経緯 - 玉川村 -

JR水郡線の駅名として名前が残る玉川村。村の中を、久慈川の支流「玉川」が流れていました。現在の地名からは失われてしまった玉川村の合併の経過をたどります。

◇江戸時代の玉川村域

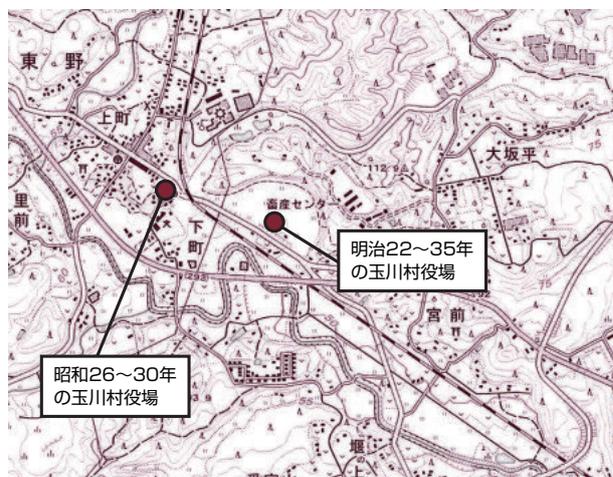
のちに合併して玉川村となる地域は、江戸時代には、東野村、八田村、菅又村、引田村の4か村に分かれていました。このうち、菅又村と引田村は天保13年(1842)に合併して新たに若林村となりました。江戸時代、水戸藩領を数郡に分けた郡制の下では、五郡制のとき4か村とも野々上組、その後の十一郡制下では八田組となり、八田村に陣屋がおかれしました。八田組には郡奉行として天保元年4月から同2年1月まで藤田東湖が在勤していました。天保期の四郡制では、東野村・若林村・八田村ともに武茂郡となりました。

◇明治以後の玉川村域

明治を迎え、大区小区制が敷かれると、明治5年(1872)以後、3か村は照田村・長田村・小野村・石沢村・上村田村とともに8か村で第十大区四小区となり、同8年9月の改正後は東野村・八田村は第四大区七小区に、若林村は第四大区八小区になりました。明治11年(1878)にいわゆる地方三新法が公布されると郡区町村編制法によって大区小区制が廃止され、郡の下に町村を置き、規模の小さな町村は数町村を連合することが定められました。これにより東野村・八田村・照田村連合(戸長役場は東野)及び若林村・下村田村・上村田村・石沢村(戸長役場は若林)の各連合村となり、続く同17年の区域改正では東野村・八田村・若林村・北塩子村・西塩子村・小野村の6か村連合(戸長役場は東野村)となりました。

明治22年(1889)に施行された町村制では、東野村・八田村・若林村の3か村が合併し、玉川村と称することになりました。これによって、東野・八田・若林の旧村は、大字(行政区)となって現在に至っています。

明治22年の合併後、役場は玉川村大字東野字塩田3949・3950合併番地に置かれました。明治35年9月、関東や東北地方に大きな被害をもたらした暴風雨で庁舎が倒壊したため、東野宿の綿引栄之介家を借用していましたが、大正4年に民家を買って元の地に建設、昭和26年に至り、大字東野字東田3303番地の1に二階建ての新庁舎を建設し、移転しました。



▲旧玉川村役場位置図



▲明治の玉川村役場の前を通るかつての国道293号線

◇大宮町への合併

昭和28年9月に町村合併促進法が施行され、各村に合併調査会が組織されると、玉川村では近隣の大賀村・塩田村との3か村合併と、大宮町との合併との2案を検討しました。同村の合併調査会は昭和29年11月には後者の案を採用することで決定し、翌30年3月に大宮町ほか6か村が合併しました。



▲玉川村役場文書(当館蔵)

【参考文献】

塙泉嶺『那珂郡郷土史』宗教新聞社 大正12年、三木隆太郎編『茨城県市町村総覧』昭和32年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『大宮町史』昭和33年、『大宮町史』昭和52年

■問い合わせ■ 文書館 ☎52-0571